

## 中学生の「税についての作文」

大木町教育長賞

### 税金は取られているんじゃない

大木町立大木中学校

三年 池 末 亜 弥

私は、税金が嫌いだ。身近にある消費税。いつも、何かひとつ買うにしても消費税が加算される。好きなお菓子を消費税のせいでお金が足りず買えなかった事もよくある。何のために税金を払ってるのだろうと、疑問に思った事も嫌になっただ事もある。そんな税金に対する考え方が変わった出来事があった。

二〇一六年、四月十四日熊本県・大分県で発生した熊本地震だった。地震によって、家が壊れ道路が崩れたりするほどの大規模な被害がでる地震となった。現地の様子を映したニュースを見た時はあまりの衝撃をうけた。熊本地震から三年たった今でも、六百四十八人の人々が不自由な生活をしている。そういった災害からの復興にも税金が使われていると知った。例えば、仮設住宅の建設や道路の補修、自衛隊の活動だ。税金に助けられた人もいると思いき、自分の払った税金で、たくさんの方が助かったと思うと嬉しい気持ちになり、私の周りでもたくさん助けられている事に気づいた。私は税金について興味を持ち調べてみる事にした。税金の歴史を辿ってみると、人が共同体となって生活していた弥生時代からあったそ



うだ。大昔の人々は、互いに助け合って生活してきたと思う。現代では、なぜ税金を払わなければならないのか。と不満を言う人が多いと思う。私もその一人だった。それは、税金を取られているという一面しか見ていないからだ。税金によって助けられ自分もよりよい生活をしている。でもそのよりよい生活を作っているのは、私達が支払う税金だ。私達が支払う税金。それが多くの人の手助けになる。そして自分も気づかないうちにいろんな人に支えられている。お互いに助け合うこと。それが税金だ。税金は取られているんじゃない。私達の未来への投資だと思う。十年、二十年先を見据えた日本にとつて成長の糧となる大切な未来への投資だ。

これからの日本をどんな国にしていくかは私達、国民が選択しなければならぬ。そのため、納税者として税金についてもっと関心を持ち、より正しく理解していく事が大切だ。税金を、人々の幸福のために使うかどうかで、住みやすくもなるし住みにくくもなる。今の日本は、国・地方とも、たい

へんな額の借金をしている。また、少子高齢化社会によって社会保障費がふえている。このままの歳入・歳出を続けると、近い将来日本は破綻すると予想する人もいるだろう。政治家や多くの人が日本の税金の制度や、使い方について議論している。皆さんも、税金の事は難しいと思わないで、日本の将来について考えてもらいたい。